

令和4年度 横浜市

「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト

表彰事業所 事例集

# 目次

## 【表彰事業所】 認知症対応型共同生活介護

サン・フローラ上白根	3ページ
グループホーム 水車の里	13ページ
みどりのそよかぜ	20ページ
オクセン	28ページ
ニチイケアセンター戸塚柏尾	36ページ

# サン・フローラ上白根

## 基本情報

法人名	特定非営利活動法人 梓岳福祉会
事業所所在地	旭区上白根町163-1 (相鉄線「鶴ヶ峰駅」より西ひかりが丘行バス「立丁場」下車、徒歩7分)
開所日	H21.2.1
定員	18名
事業所の見学	利用者の見学は随時。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:水越 045-952-6541)
特徴	入居前に、故郷や育った環境、仕事、家庭生活、性格、趣味等について詳しく確認し、利用者のこれまでの暮らしや生きがいについて理解を深めています。利用者が生活の中で満足感を得られるように、食事メニューと一緒に考えて準備したり、なじみのお店に出かけたりするなど、一人ひとりのペース、その日の気分に合わせて支援を心がけています。



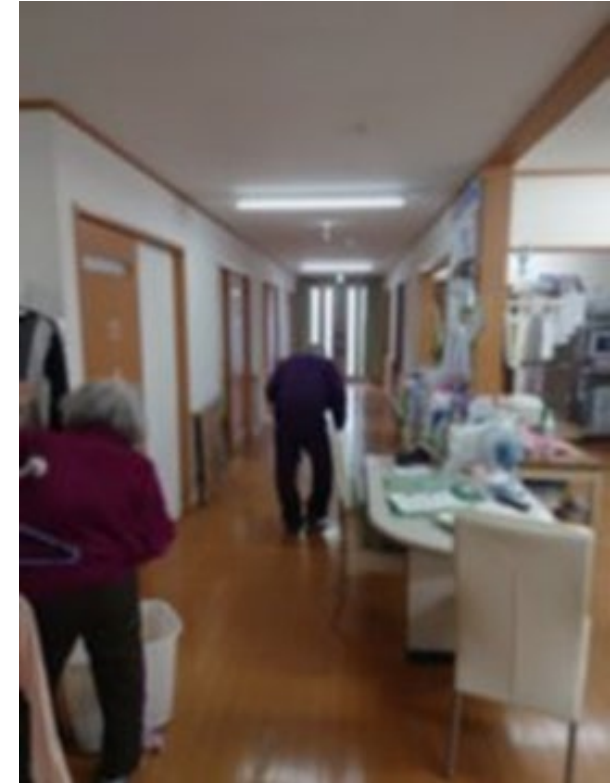
# サン・フローラ上白根

## 【事例又は独自の取組み等】

- ・要介護5 86歳 男性
- アルツハイマー型認知症
- 交通外傷後歩行障害(杖を使い歩行)
- 両側変形性膝関節症

大腿骨頸部骨折で入院し手術を行い  
4週間後退院医者からは、車椅子で生活  
になると言われる。

- ・本人、施設の思い  
今まで通りとまではいかないが、自  
分の足で歩きたい  
買い物等に行きたいとの思いがある。





# サン・フローラ上白根

車椅子から椅子への移乗の際、立位が可能だったため、入居者本人と相談後、毎日の目標を決め歩行する事とした。

開始時は、歩行器を使い自室まで(5メートルぐらい)歩くところから始め、徐々に距離を延ばしていった。

3週間ほどで、杖を使った歩行が可能となり、おやつ後に廊下を10往復するのが日課になっている。

コロナの影響もあり、買い物等の外出は出来ていないが、近隣への散歩には出かけられるようになった。



# サン・フローラ上白根

## 【事例又は独自の取組み等】

・要介護3 91歳 女性

混合型認知症

脳内出血(左視床出血により軽度の右片麻痺あり)

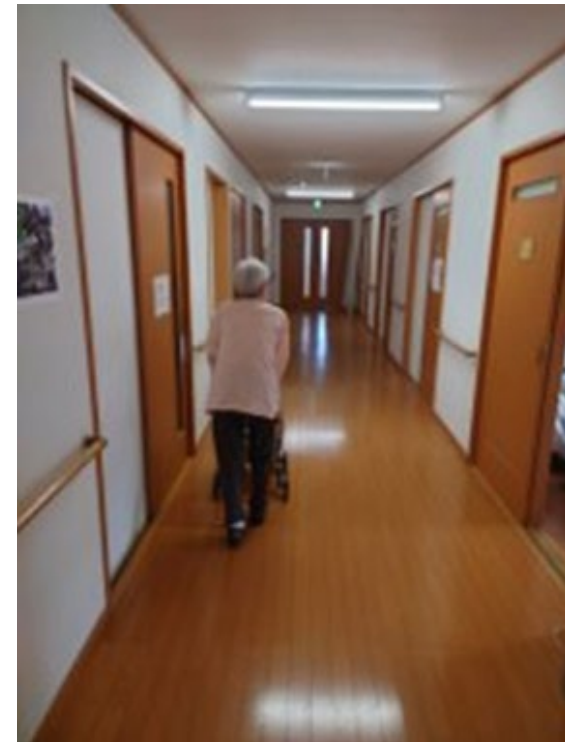
高血圧

左足大腿骨骨折で入院し手術を行い

3週間後退院

・本人、家族の思い

自分の足で歩き生活したい思いがある。



# サン・フローラ上白根

椅子に座った状態で足首の運動から徐々にはじめていき、1週間で歩行器を使い自室までの歩行が可能となった。

徐々に距離を延ばし歩行が安定したところでシルバーカーに変更し歩行していただく。

一か月ほどでシルバーカーを使い、散歩に出かけられるようになった。



# サン・フローラ上白根

## 【事例又は独自の取組み等】

- ・要介護1 73歳 女性  
アルツハイマー型認知症  
大腸炎  
高血圧

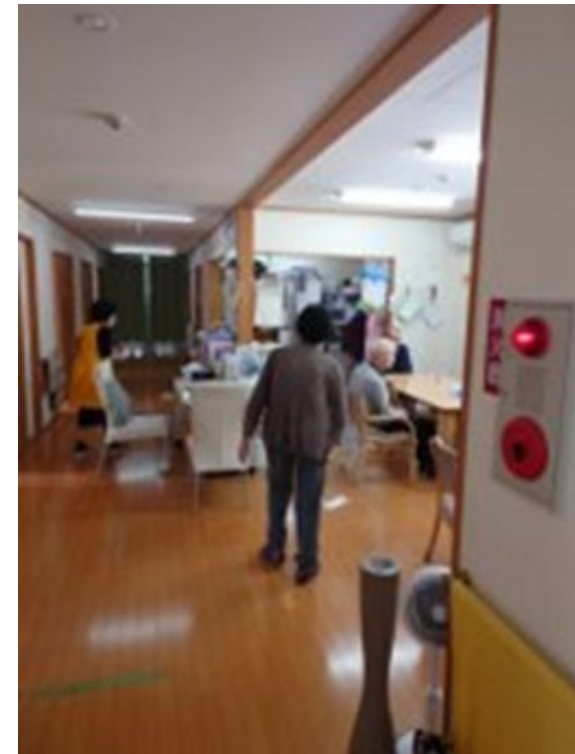
入居時老人性のうつの症状がみられ

要介護2 笑顔も無く他入居者の方との  
会話もなく

居室で寝ているか、リビングの自席に座  
りテレビを見ていた。

- ・家族の思い

毎日笑顔で過ごしてほしい。





# サン・フローラ上白根

毎日の日課を作り、出来るかぎり職員が隣に座り、話しかけるようにした。

朝の掃除では、モップ掛けしていただくようにしたが、開始2週間ぐらいは自室のみを掃除し、すぐにベッドで横になられてしまう。

リビングにいらっしゃる時、他入居者及び職員が、隣で話をしていたこともあり徐々に打ち解けられ、モップ掛けもフロア中をしてくださるようになった。また、食事作りにも参加していただけるようになる。

現在は、他入居者及び職員のお世話をしてくださり、日中はリビングで他入居者と笑顔で過ごされている。



# サン・フローラ上白根

## 【事例又は独自の取組み等】

・要介護1 75歳 女性  
アルツハイマー型認知症

入居時、要介護2  
暴言、失禁、異食の症状があった。

認知症の処方薬として  
アリセプト、メモリー、抑肝散が処方されていた。

・毎日の日課を作ると同時に、往診医及び  
家族と相談しながら薬の調整を行った



# サン・フローラ上白根

認知症の薬を往診医との相談後、メモリー、アリセプト、抑肝散の順に中止し、毎日のご飯作りと食材の買い出しをお願いした。

1か月半程で、暴言、異食はなくなり、穏やかに過ごせるようになられたので、徐々に役割を増やしていった。

今では、他入居者及び職員のお世話の他、率先して掃除をしてくださるようになり、失禁も改善され布パンツで生活していただけるようになった。





# サン・フローラ上白根

介助や援助をこなすだけの介護施設ではなく、入居者がご自宅で過ごされるように生活していただきたい。

食事メニューを一緒に考えて準備したり、なじみのお店に出かけたりするなど、入居者個々のペース、その日の気分に合わせた支援を心がけています。

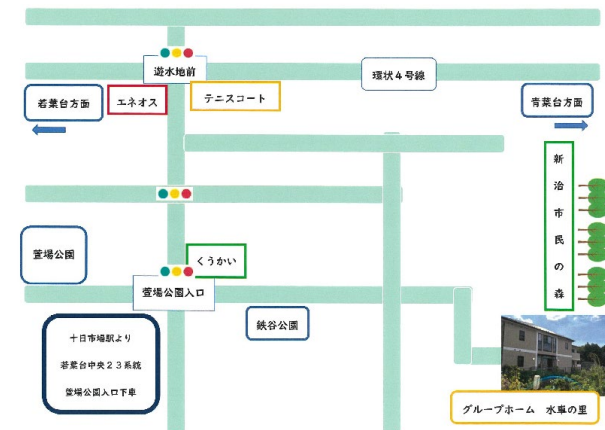
職員も入居者と一緒に楽しく張り合いのある毎日を過ごし、自身が入りたいと思えるような施設を目指し、様々なことに挑戦中です。



# グループホーム 水車の里

## 基本情報

法人名	有限会社 水車の里
事業所所在地	緑区新治町1101-2 (JR横浜線「十日市場駅」より若葉台中央行バス「萱場公園入口」下車、徒歩5分)
開所日	H18.4.1
定員	18名
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:高田 045-938-0595)
特徴	入居者さんの働きたいという希望を叶えるため、入居者さん本人が社長として開店準備から携わり、事業所内にアイスクリーム屋をオープンしました。また、子ども好きな入居者さんの子ども食堂でのボランティア活動をサポートするなど、自分らしい生活支援を大切にしています。 日々の生活では、身体機能に合わせた自立支援を心がけ、入居者さん本人がやりたいと意欲を持てるようなかわりを大切にしています。



# グループホーム 水車の里

## 【事例又は独自の取組み①】

要介護2:認知症自立度Ⅲa:89歳(当時):女性  
身体的自立度は高いものの日々の生活に対し意欲が持てなかったAさんが「また昔みたいに働きたい」と表出した思いに対し、自分らしい、新たな生きがいを持てることを目的とした取組みです。

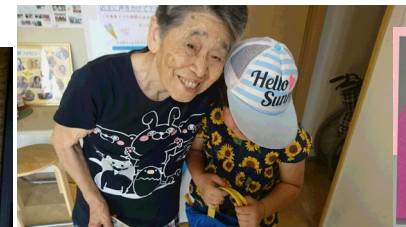


長年青果店を営んでいたAさんがホーム内に「アイスクリーム屋」をオープン

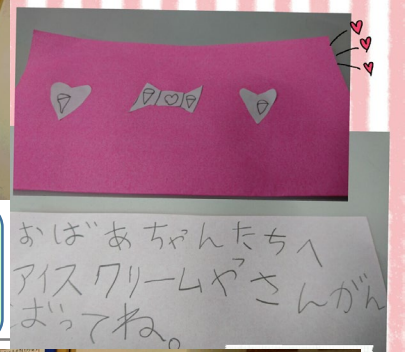
Aさんを中心に开店準備。  
営業許可の申請も行い、  
仲間の力を借りながらの  
オープン



「社長、お客さんだよー」の声に飛び起き、  
3日に1回はアイスの買出しに出かける毎日。  
開店当初は難しかったお釣りの計算も  
2週間ほどすると、一人で出来るようになりました。



応援メッセージも  
いただきました。





グループホーム水車の里の入居者さんが、  
「おばあちゃんちのアイスクリーム」  
を令和 元年 8月 5日にオープンしました。

☆スーパーカップ

☆ジャンボモナカ

☆クーリッシュ

☆ジャイアントコーン など。

☆ガリガリ君のみ税込み50円  
入付状況によりアイスの種類は異なりますが、常時10種類以上のアイスをご用意しています。  
お気軽にご来店ください。

☆毎日元気に営業しています(雨天も営業しています)

☆グループホーム水車の里玄関のインターフォンを押してください。

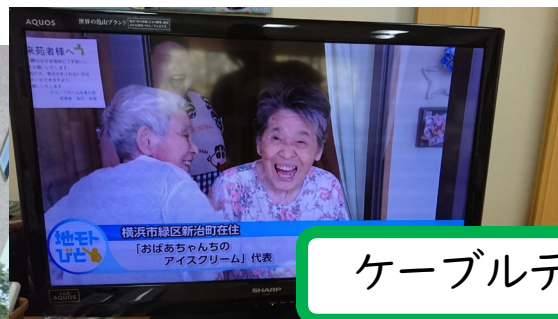
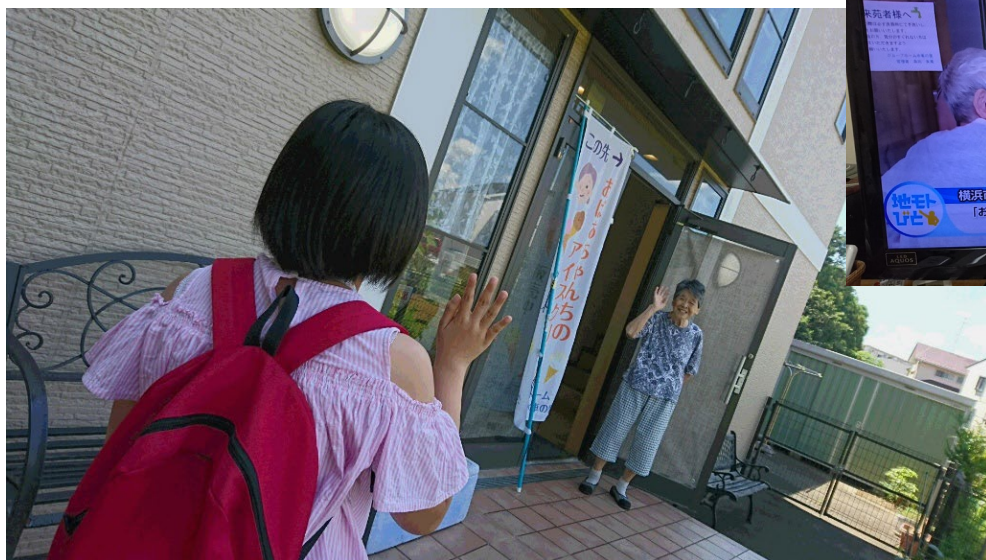
☆問い合わせ先: 緑区新治町1101-2 ☎ 045-938-0595

なじみのアイスクリームを  
税込み100円で販売しています。

☆ガリガリ君のみ税込み50円



長年青果店を営んでいたAさんは、  
店先でのお客さんや地域の子供たちとの交流が  
大好きであったと話される。



ケーブルテレビにも出演



入居から  
10年以上  
今も要介護2を  
キープ



「おばあちゃんちのアイスクリーム」オープン以降、  
猛暑、グループホームのリビングで休息する小学生や、  
「車がないからアイスが買えない」という地域の高齢者、  
「社長(A氏)のファン」とおっしゃる常連客もできました。

令和5年2月末現在、販売したアイスの数は6000個以上に。

グループホームが  
地域の新たな  
居場所に



# グループホーム 水車の里

## 【事例又は独自の取組み②】

要介護Ⅰ：認知症自立度Ⅲα：90歳：女性

一人暮らしは難しかったけれど、少しのサポートがあればまだまだできることはたくさん。

グループホームにて自分らしい生活を取り戻す、Bさんへの取組みです。



～日々の生活の営みを自分らしく継続～  
事務所で使用するウォールポケットもBさんの手作りです。



子ども食堂にて  
ボランティア活動

子どもを眺めているだけで幸せと話される。



重度化した他のユニットで夕食後の後片づけをお手伝い。  
おかげでケアに時間をかけられるようになり、  
スタッフから感謝の気持ちを伝えました。





自粛生活で雑巾作り

長年営んできた生活への支援だからこそ、  
自分らしく日々を過ごすことができる。  
余暇の過ごし方も大切です☺



コロナ禍、  
入居者さんの一言で  
使い捨ての雑巾を地域の  
小学校に寄付することに。  
お仲間と一緒にたくさん  
縫って下さいました。

日課の  
お散歩



入居から6年以上経った今も要介護Ⅰを維持





# グループホーム 水車の里

## 【事例又は独自の取組み③】

その他入居者の皆さま：

認知症対応型共同生活介護事業所として  
認知症に対する啓発活動や適切なケアにて  
自分らしい生活を継続していただけることを  
大切にしてきました。



唯一の男性入居者さん  
「男だから力仕事とか、何か協力したい」と嬉しいお言葉



使われていなかった畑で野菜作り。  
白菜はお漬物にして食卓に並びます。  
早い日は朝の5時から草むしりも😊

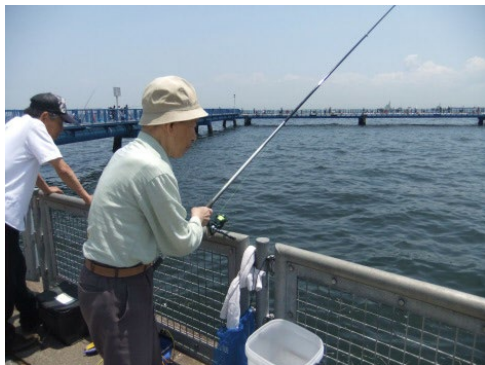


ネスレさんの活動に参加し、  
エコハブとしてコーヒーなど商品をお届け。  
(現在は実施していません)

倒木でホームの表札を  
作ってくれました。



誰もが自分らしく生活できることを大切にしています。



入居以前から参加していた会食会に入居後も参加



認知症の啓発活動に参加  
大学で自身の体験を話されたことも。



♪

地域の一員として

大人ですから。  
たまには夜遊びも😊



九州 VS 東北  
熊本の辛子レンコン&秋田のきりたんぽ



入居から16年。  
ホームで一番長く暮らしたCさんをお看取りし、みんなでお見送りいたしました。ホームでの長い入居生活では、ご本人の意向である一人での散歩を地域の方々にもご協力いただき支援いたしました。



# みどりのそよかぜ（高齢者グループホーム）

## 基本情報

法人名	有限会社グループホームそよ風
事業所所在地	青葉区みすずが丘26-15 市営地下鉄ブルーライン「あざみ野」より 徒歩20分 東急バス あ72系統「みすずが丘」下車 徒歩2分
開所日	2003年(平成15年)9月1日 (介護予防 平成18年4月1日)
定員	27名
事業所の見学	利用者の見学は随時受付しています。 他事業所からの見学(平日のみ)も歓迎します。 対応可能時間は10時から15時まで。事前にお問い合わせください。 (担当:事務 045-974-3801)
特徴	「自分のことは自分で」を基本に捉え、生活上のすべての事柄に対して、出来る動き、活動などは利用者様本人が行えるように支援しています。利用者様がやりたいと思い行動したことに関しては、利用者様個々の能力で難しいと思われる内容であっても、制止せずに見守ったり、一緒に取り組んだりするなど、自己決定を促し、自らの選択で生活できるようにしています。



# みどりのそよかぜ（高齢者グループホーム）



## 【事例】

要介護3 59歳（入居時） 女性

主傷病名：**若年性アルツハイマー型認知症**  
認知症に基づいたロゴペニック型  
原発性進行性失語

\* 事業所の利用を始めたきっかけ

他施設に入所したものの、暴言暴力行為が見られたことで、介護困難と判断され退居となる。そのまま、病院への入院となるも、入院期間中も暴力行為や易怒性が見られる。投薬にて落ち着いて生活できるようになるが、入所や入院の間に会話及び意思疎通能力は低下。ご家族の病院に対する不信もあり、退院の運びとなる。しかしながら、家族での介護は困難であったため、当ホームに入居される。入居時のご家族の希望は「可能な限り普通の生活をさせたい」ということであった。

\* 入居当初の状態

ADLはほぼ自立であったが、失語により円滑なコミュニケーションは困難な状態であった。単語の発語が多少認められる程度で、こちらからの問いかけに頷き等の反応あり、理解の範囲を確認していた。入所後、1か月程度は落ち着いて過ごされていたが、徐々に精神的な不安定さが露出され、スタッフに対しての暴力行為が見受けられるようになる。スタッフを後ろから羽交い絞めにして、居室に引きずり込んだり、居室内で壁に身体を押し付け、殴る、蹴る、髪を引っ張るなどの行動あり。ひどい時には、首を絞めるなどの行為もあった。スタッフが、その場を逃げると走って追いかけてきては、同様の行為を繰り返す状態であった。また、スタッフが他利用者の介助等に入ることを嫌い、他者に近づけないようにする行為も見られた。

# みどりのそよかぜ（高齢者グループホーム）



## \* 生活上の問題点

入居当初は環境の変化から、戸惑い・不安感を表出することが多く、スタッフへの固執や独占願望、暴力行為の出現等、精神的不安定さが認められた。暴力行為はスタッフに向けられることが多いものの、他入居者に向くことが否定できるものではなく、共同生活を送ることが厳しい状況であった。

## \* 問題点からの考察

他入居者は、親世代であり、高齢者の集団に戸惑いが大きい状況と思われた。リロケーションダメージは、他者に比べ計り知れない大きさであったと考える。他入居者と、どう接していいか分からない不安がスタッフへの固執・独占につながり、傍から離れてしまうことに不満を感じ、それらが暴力行為に発展すると考えた。

## \* ケアの方針

本人の不安を理解することで精神的な安定を図ると共に、思いの把握に努めた。

## \* カンファレンス内容

- ・暴力行為等の言動はBPSDであることを理解する
- ・失語から言葉で思いを伝えるのが難しく行動に頼って表現していることを理解する
- ・本人の置かれている環境を理解する
- ・短期間での精神安定を実現する

## \* ケア計画

日勤帯においては、担当スタッフを決め、本人の専属とすることで嫉妬心や不安感の解消を図る

# みどりのそよかぜ（高齢者グループホーム）

## \* 経過①

【1日～7日】

居室内を好み、トイレ以外スタッフと居室内で過ごす。スタッフが少しでもその場を離れたり、自らの思い通りに行動しないと暴力行為に繋がる

【8日～14日】

スタッフと一緒にいることで、居室に拘らないようになる。食事は食堂で摂取することが可能となり、掃除等の活動へも参加できるようになる。暴力行為の頻度も減少する。

【15日～20日】

少人数レクリエーションを本人の居室内で行うことで数人の他利用者と過ごせるようになる。他者と楽しみを共有できるように働きかける

## \* 経過②

【21日～25日】

日中の殆どを居室外で過ごすことが出来るようになり、調理作業や片付け、洗濯、買い物等の家政作業に自ら参加されるようになる。スタッフが他利用者の介助を行う時や疲労等を感じると、自らスタッフから離れる様子が見られるようになり、スタッフに固執しなくとも、個の時間や他利用者と過ごす時間を作れるようになる。

【26日～30日】

他利用者と同じ生活ペースで過ごせるようになり、共有空間でも混乱や不安を感じず生活を送れるようになる。



スタッフとの一対一の対応は1か月間で終了

# みどりのそよかぜ（高齢者グループホーム）



## \* 経過③

### 【2か月目】

一対一の対応を終了したことで、ユニット内のスタッフ全員が対応に当たるようになった。

スタッフの対応能力の差によって、スタッフへの好き嫌いが発生するとともに、不満の発生頻度が増し、再び暴力行為が認められるようになった。

### \* 問題点 \*

スタッフの内、数名が利用者様の状況を受け入れられず、「危害を加える人」として対応したことで、利用者様に苛立ちや腹ただしさを与えてしまった。

上記を理解できないスタッフが、利用者様に「手に負えない人」というレッテルを貼ってしまった。

## \* 結果

利用者様を受け入れられないスタッフは、「従業員の労働環境」という問題として捉え、事業所に対し不満を訴え対処を望んだ。しかし、先の1か月の対応から、まずはスタッフ側の対応を変えてみることにについて話し合いを行った。しかし、認知症に対しての知識が乏しいスタッフにBPSDの理解を求めることは短期間では困難であった。

認知症ケアを理解しているスタッフの「受け入れる」姿勢により、徐々に落ち着きを取り戻し、スタッフの好き嫌いとは多少の暴力行為は続いたものの、危害に発展することはなく、他者と同じ空間での生活にも拒否が見られなくなった。時間を共有する中で、スタッフも本人が何を思い、行動しようとしているのか理解できようになり、愛着をもって対応でき、ケアの導入がスムーズになった。また、スタッフと共に活動参加する中で、生活の“楽しみ”が見いだされ、率先して、自発的に活動に参加するようになり、笑顔や発語が増えた。



# みどりのそよかぜ（高齢者グループホーム）

＊ 現在 ＊

あれから、もうすぐ5年が経ちます。

紆余曲折、いろいろありましたが、私たちは共に過ごす仲間となり、共に助け合う同志となりました。

話すことはありませんが、目や表情から多くのことを読み取れるようになりました。

いまでは、スタッフみんなに愛され、たくさんの癒しを私たちに提供してくださっています。



# みどりのそよかぜ（高齢者グループホーム）



この事例を通して

疾患を持つ利用者様の中には、他害の見られる方もいるが、その原因が何であるのかは、深く考えるべきであろう。人が生活するということは、喜びや楽しみだけでなく、怒りや哀しみを伴うものであることを理解し、介護支援に携わっていきたい。

そして、その喜怒哀楽すべてが、認知機能の維持に役立っていると考える。

# みどりのそよかぜ (高齢者グループホーム)

みどりのそよかぜでは  
人と人とのかかわりを大切に  
認知症支援に携わっています。



個を大切にしつつ  
集団だからこそ得られる  
社会性をエッセンスに

いつも誰かに  
ほんのちょっぴりでも  
笑顔を与えられる人生を  
過ごしていただきたいと  
願っています。



# オクセン

## 基本情報

法人名	株式会社 フクイカイ
事業所所在地	港北区樽町2-10-26 (東横線「綱島駅」徒歩8分)
開所日	H9.1.28
定員	9名
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当: 牧野 045-545-0111)
特徴	時間がかかってもできるだけ手助けをしすぎず、声かけや見守りでサポートするようにしています。動作を始めるきっかけなどを支援し、そこから先は自分で行っていただくことにより、自信を回復させ、身体機能の維持・向上を目指して支援しています。また、スタッフ間のコミュニケーションをよく取り、言いたいことが言えるような環境をつくることで前向きに取り組めるようにしています。





# オクセン

## 1人で気ままに出かけたい…



70代 男性 要介護I  
入居して2年4か月。

みんなの為に「何でもやるよ！」。「俺の家は清潔模範の家植  
で表彰された野菜を育て、掃除毎日洗濯水やりは食器洗いは彼の役割。年上の方  
の椅子やスタッフとしたりして、おしゃべりした時間をとって楽しんでいる。  
仲間やスタッフとしたりして、おしゃべりした時間をとって楽しんでいる。

でも…彼の希望は、ここを出て一人暮らしをすること、一人  
で気ままに外に出かける事。

何故ここに住んでいるのかわからない。「ここも悪くない  
けど、いつになったら出られるの？」と言う。

1人暮らしは難しい。スタッフと一緒の買い物やお仲間と  
一緒の散歩だけでは、彼は満足していない。

『1人で気ままに出かける』という彼の希望は叶えること  
が出来るかもしれない！



### これまでの様子

近くに住んでいるはずの友人の家を探しに一人で出かけてみた  
けれど2時間歩いても見つからなかった。疲れが出てきた様子  
を見て、スタッフが声をかけ、車で迎えに行った。

「公園に一人で行って来るよ」と言っ、いつもみんなで行か  
ける公園に一人で出かけた。スタッフはその後をつけてい  
た。周りの景色や人の動きを眺めながら、すっかりした足  
で、迷うことなくどおり着いた。公園で遊ぶ子供たちをベ  
に座って眺め、晴れやかな笑顔だった。出発から約40分、玄関  
の呼鈴を自分で押して無事帰宅。

### これから・・・

少しずつ忘れる事が増えているけれど

今ならば一人で出かけられるかもしれない・・・

行方不明、転倒、事故などのリスクは？

家族や代理人の承諾が得られるか？

1人での外出以外で、彼の気持ちが晴れる活動はないか？

課題や不安は多いけれど、彼の希望と私たちができる事に折り  
合いをつけていきたい

コロナが落ち着いてきたので模索、検討を始めています。

## 意思に沿ったケアの始まり

90代 女性 要介護3

1人暮らしの自宅で転倒され、大腿骨頸部骨折し入院、手術を受けた。リハビリ施設で半年過ごし、グループホームに転居してこられた。

自分の事は自分で、また頼まれたことはきちっと行う。ご家族や友人の事、得意だったピアノやテニスの話など話すことが大好き。毎日日記を書いている。書くことが仕事(!)。

転倒、骨折、手術の事は覚えていない。

車椅子を使用した状態での入居でしたが、トイレに行く、席を移動するなどご自分から動き出すこともあった。本人の意思に沿ったケアを提供するため、自力で歩行できるようになることを目標にした。

時々足の痛みや痺れの訴えもあるが、つかまり立ちが安定している事を確認し、スタッフが両側について歩くことから始め、徐々に歩行器を使用してホーム内を移動することができるようになった。



洗濯物たたみ、タンスの整理、布団のカバーをかけ直すこと等きちっとご自身で行われる。

車椅子で介助されるのではなく、自分のタイミングで動きたい時に自分の足で動けることが、グループホームで自立した生活を送る第一歩につながった。

足の痛みや痺れは今でも続いているが、入居から7年、今でもスタッフに見守られながら、歩行器を使うのも忘れる程ホーム内をご自分の足でしっかりと歩かれている。





## 大好きな絵に囲まれて

70代女性 要介護Ⅰ

1人暮らしで趣味の絵を楽しんでいたが、認知症になり描くことはしなくなっていた。

画材を持って入居し、絵を描くことを再開した。

最近では描くことが難しくなってきたが、自分の描いた絵は覚えている。居室や廊下は彼女のアトリエのようだ。





# オクセン

## お菓子作り

お菓子作りの過程では多くの機能を使いそれぞれの得意を発揮し身体機能の維持向上や自信の回復にも繋がります。

季節を感じる・考える・選ぶ・買う・切る・混ぜる・焼く・盛り付ける・共同作業・助け合いなど

そしてできたものを鑑賞し、季節や行事を思い起こして、昔話などしながらみんなで食べる。

楽しみと気持ちの安定によって、自立支援に繋がっています。





# オクセン



## お出かけ・散策

オクセンの近隣にはとても素敵な場所がたくさんあります。お出かけは気分転換、機能訓練、地域との交流。心と身体を健やかに保ち、日常の生活に良い影響を与えています。日光浴と程よい体の疲れにより良質な睡眠が得られたり、お仲間同士の楽しい会話が聞かれ笑顔が増えたり、助け合う場面が見られます。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2022



# オクセン

## 家事 得意な事 楽しみ事



日常生活の中で 自分で出来ることやりたい事を  
スタッフと一緒に探して見つけて日々活動しています。



屋上では、花火やお月見、  
カーテン、お茶会等  
楽しみ方はいろいろ！



# イベント



プロの音楽家やご家族、地域のボラン  
ティアの皆さんが日常を特別な変化の  
あるものにしてれています。

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2022

# グループホーム オクセン



もみじやいちょうは最期まで鮮やかに色づいて  
見るものを楽しませてくれます

心安らかに色鮮やかに暮らせるように・・・  
我々はそう願っています

ご入居者の皆さんにとって  
ここが家にいるのと同じように  
安心してくつろげる場所になるように  
年をとったから、認知症になったから  
ここでの生活はしかたない・・・ではなく  
ここでの生活もわるくない！と感じて頂けるように  
入居者の方一人一人が主役であり  
様々な生活様式、背景があり  
様々な思いや希望があることにスタッフは思いを寄せ  
ともに生活していきたい  
理念に添ったパーソンセンタードケアの実践に  
今後も取り組んでいきます

オクセンスタッフ一同



# ニチイケアセンター 戸塚柏尾



## 基本情報

法人名	株式会社 ニチイ学館
事業所所在地	戸塚区柏尾町1331番地 (JR線「戸塚駅」保土ヶ谷駅東口行他「ポーラ前」下車、徒歩10分)
開所日	R5.4.1
定員	18名
事業所の見学	見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。 事前にお問い合わせください。(担当: 添田・中山 045-392-6283)
特徴	日々の生活において、利用者同士助け合う場面を大切にしています。地域とのかかわりを持つことを重視し、小学生へのあいさつ運動や清掃活動、老人会との交流などを積極的に行っています。利用者の思いを聞き、願いを叶える活動を事業所として行っており、事業所内の暮らしだけでなく、社会交流も含めて希望を実現できるよう支援しています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト

# 事例『地域の一員として 役割・生き甲斐を持って暮らす支援』



【従来のグループホームの暮らしの様子】

①施設内での日常活動の支援が  
大半を占めている。

②好きなこと・やってみたいことも  
言えず黙ってサービスを受けている。

③ご利用者が、皆同じ場所で過ごし  
やる事も無く、下肢筋力等が、加齢と  
共に衰えて行く状態。

取り組みの  
変化

個々のご利用者の生活歴・特徴を再アセスメントし、  
本人の思い・能力を活かせる暮らしを提供する事  
になった。

## ■取り組み

目的：地域の中で役割を持った暮らし、  
やりがいや生き甲斐の『場』を提供していく

内容：グループホームの強みを活かし  
地域・他職種との連携を図り、住み慣れた  
地域で暮らして行けるよう地域活動を増やす

課題：①地域との信頼関係を築くために  
地域のニーズを把握して関わる  
②ご利用者の声・要望を活動に活かす

結果：ご利用者が、主体的・自発的な活動が出来、  
介護予防にもつながった。

# 事例NO.1 : 【地域活動】 移動販売

要介護1：76歳 N様  
男性  
『自分にできる仕事を  
しながら暮らしたい』

ホームの前には、470世帯の県営アパートがあり、高齢化も進んでいます。2020年地域の課題『買い物難民支援』として移動販売を企画し毎週金曜日にホームで開催しています。ご利用者が品出しをお手伝いをするなどの役割を担い、地域住民との交流の場にもなっています。

2022年の活動の変化

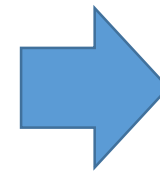
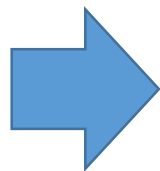
買い物に来られた 住民の方にも高齢者の方がいらっしゃいます。住み慣れた家で暮らしていけるように、買い物をされた商品をご利用者と一緒に、ご自宅までお届けする活動を行っています。

N様：『地域の方を助ける事が出来て嬉しい』  
GH『小さな活動から、輪が広がっています』





## 事例NO.2 : 【うさぎ小屋清掃】



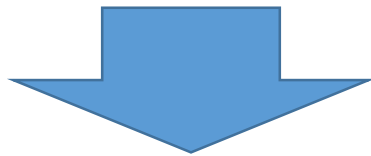
毎朝、小学生の登校時には、挨拶運動を行っています。  
その活動から繋がり、学校からうさぎ小屋清掃の依頼があり、  
今ではその役割がご利用者の生き甲斐にも。  
朝食が終わると、『さあ！子供たちに会わないと！』との声も。





# 事例NO.3 : 【みらい柏尾公園清掃】

地域清掃の活動当初は、地域住民に危ないと反対もされていました。



終わった後は、感謝の言葉をかけ『お疲れ様会』をしています。

地域清掃日の同日に、ホーム前の清掃を行いながら、徐々に地域住民から認知症の理解を得る事も出来て、今では挨拶を交わす事も出来るようになりました。2022年12月には、ホームの前に、みらい柏尾公園が開設され利用者様の声から『毎日散歩で行く公園だから、皆で、きれいに掃除をしよう』と始まった公園の清掃活動です。





# 事例NO.4 : 【花壇の植え替え】

2023年は、柏尾自治会・横浜市のみどりの協会の協力を得て、みらい柏尾公園の花壇の整備・ホーム横の花壇等をご利用者と一緒に整備し、地域の方へ癒しの場の提供をしています。



安心して暮らせる地域づくりに自治会も協力しています。

要介護1 85歳 Y様 女性  
『花が好き、もっと地域の方と仲良く暮らしたい』

舞岡地区センターの協力を得て、花の植え替えボランティアとして、お手伝いをしながら、地域の方と交流ができました。



舞岡地区センター





# 事例NO.5 : 【地域のイベント参加】

施設内だけの暮らしに留まらず、ご利用者の力・能力に合わせて、自治会の協力にて、地域のイベントにも参加しています。老人会の皆様との交流も行っています。



老人会でボッチャゲームを通し交流をはかる

『福祉の人が、そばにいてくれると、安心して暮らして行けるよ』と老人会のF様が話していました。お互いの助け合いながら、地域で暮らしていけたらと考えています。



柏尾町自治会イベント



地域の人と一緒に歩こう会に参加



2020年コロナ前には、地域の夏祭りに模擬店をご利用者と一緒に出店しました。子供たちにバルーンのプレゼントも！





# 事例NO.6：【トマトケースラベル貼り】



伊豆にあるトマト農園（井上農園）に、皆さんと一緒に、ドライブに行きました。感情に残る記憶は、いつまでもご利用者の心に残ります。



個々のご利用者の出来る能力を活かしながら、人の為にお役に立つ活動は、ご利用者の意欲・生き甲斐・役割に繋がりました。そして、社会との関わりは、楽しみを持つ暮らし、介護予防に繋がっていきます。



# 事例NO.7 : 【野菜の栽培収穫活動】

H様 87様 要介護2  
レビー小体認知症  
幻視・睡眠障害が見られ在宅介  
護が困難となりGHの入居  
農家で生まれだと情報を得て  
畑仕事を主体的に活動をおすす  
めしてみました。

青空の下で、体を動かす  
事で、心理的な効果も出  
て、幻視等も軽減され、  
日々の活動も自然に暮ら  
す姿が見られた。





# 体を鍛える介護予防への取り組み



## 【介護予防】

- ① 役割を持ち貢献意欲を高める
- ② 体を動かし適度な運動を行う
- ③ 栄養をしっかり取る。



# 皆で助け合いながら自分達でつくる暮らし

お互いを認め助け合う姿勢とご利用者が、どんな暮らしを望んでいるのかを情報収集し実践をする事が、皆様の笑顔に繋がっています。

美味しそうなパンだね

りっぱな大根が取れた！



いつもお疲れさま…。



ご利用者の要望で、朝食にはパンを提供しています

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2022